

南極クラスの学習の様子が新聞に掲載されました。

被害が後を絶たないのボランティア（いき行行動隊）（石表）は、被害をためるための研修会を旧会館で開いた。が参加して、模擬えながら詐欺電話などを学んだ。先事業の一環として実施。道民生活に別署員が講師を

手続きをして「息子さんが事故を起こした。金を払えば示談にできる」などと演技。参加者を前に「詐欺師は考える隙を与えない。不審な番号からの電話には出ないことが最大の防犯になる」と呼びかけた。同署によると、同署管内では昨年、特殊詐欺被害が14件確認されており、被害額は約4400万円に上

# 北海道新聞 6月17日

（土門寛治）

が、取締役でした。道内に想定していた農産物の関する地域分既にマレーシや、道内高校にしていることを人材育成にも

教授だった金兼環境情報サイ、GISのきた。インタ、農業分野な今後、一層の「センターの独立させるこ金子社長らが核などに使用行を美演。高情報収集や同社の強み産学官連携なを目指す部署足した。そのンチャアの第チャーの新設し、岩野英知（土門寛治）

地理情報システム 人工衛星やドローンなどから収集した地理情報をコンピュータを利用して分析や編集を行う技術。土地や農業、環境保全など幅広い分野で活用されている。

## 極寒の南極生活「仲間と助け合った」

元越冬隊員佐藤さん  
大麻泉小で出前授業

【江別】南極地域観測隊の元越冬隊員による出前授業「南極クラス」が15日、大麻泉小で開かれ、4～6年生約120人が南極大陸の環境や隊員の生活ぶりについて理解を深めた。

北海道学校生活協同組合の主催。建築分野の専門家として2017～19年、南極の昭和基地に勤務したミサワホーム北海道（札幌）の佐藤啓之さん（57）が講師を務めた。

佐藤さんは特に印象に残ったこととして自然の厳しさを挙げ、太陽が全く昇らない極夜には体調を崩す隊員が出たことなどを多数の写真や動画を駆使して説明。寒さについては、同校の教員の一人に氷点下30度でも活動できる防寒着を着てもらい感想を聞くなどした。

現地では専門外のことも助け合っていたとして「お互いの仕事の大変さが分かり、仲間になることができ」と話した。（石井昇）

教員をモデルに南極で使う防寒着について説明する佐藤啓之さん



伝統 盛大に

北海道

つり）最

こし渡御

行われた

った空の

13000

身にまと

ずに参加

かせなが

みこし

（明治11

コロナ禍

今年で1

りの開催

加人数を

◆22日

【江別】

町西1）

ら、街歩

江別探訪

史跡を散

当日は

点に、水

園周辺の

郷土史に

定員は

小雨決行

までに同

385・

◆酪農

どもまつ

まさまな

「江別」